

(2) 委員からの情報提供「空間利用」「環境」

小松委員

「大和川学習と子どもたち」

配付資料

大和川学習と子どもたち

堺市立向丘小学校

小松清生^{チヨシキ}

1、地域の川の学習は楽しい・子どもたちにとっての意味

- 魚や貝がとれ、遊べた昔の川の様子を知り、川への興味や願いをもつと子どもは変わる
 - ・ 川に入り水遊びを体験。きれいな川への願いを高める
- 地元の小さな川も大和川に、そして海につながっていると知って驚く
 - ・ 川の合流や汚染の始まりなど、歩いたり地図で確かめたりしてわかる
 - ・ 源流から下流へ。山から海へ。地図学習を確かなものに。
- 大和川つけかえは「歴史みたいでおもしろい」と感じる、中学年らしい勉強。
 - ・ 「歴史のある川」だったと気づくことで、親しみ・関心がぐっと変わる
 - ・ つけかえ賛成反対について考えることで、住民の利害や願いについても気づく
- 理科「流れる水のはたらき」の学習や清流への遠足や観察ができると、認識はより確かになる（指導要領の改定で、現状は工夫が必要）
 - ・ ゴミ・生ゴミリサイクル・上水・下水・森林・漁業などの学習との関連・系統性・発展性を意識してとりくめば、子どもの興味・認識はより高められる

2、学習場面としての大和川

- 小学校社会科4年生『郷土の開発』単元で「大和川のつけかえ」
(大阪府の東部と南部。北部は淀川)
- 小学校理科5年生「流れる水のはたらき」など
- 小学校社会科3年生『昔の暮らし』単元で地元の川の昔の様子を調べる
- 小学校1・2年生活科『まちたんけん』
- 小学校3～6年 中学 高校 理科や総合的な学習での『大和川』
生物・自然・環境・歴史・地理など
- 今、禁止されていても川で釣りをし、石投げや川あそびを楽しむ子ら・・・
「川ガキ」の復活は、子ども社会に変化をもたらす？

3、大和川学習の独自性

- 250周年にまちがった歴史が記録されて来た。副読本などの教材も、大和川のつけかえの歴史について、数年前までそれらの記述が多くあった。
- つけかえ功労者中菴兵衛 10代目・中九兵衛氏が、史料を保存し史実研究に努力されている。つけかえ反対の史料の新たな発見があり、研究者の関心が高まっている。
- 水質「ワースト1」の川を何とかしたい・・・クリーンキャンペーン20年の歴史。
- 堺漁連高田利夫さんら、川と海への熱い想いと実践力をもった人たちがいる。
- 90年代半ばまで、子どもたち用の学習資料がほとんど無かったが、遊びながら学習できる資料として「大和川かるた」を発行。(教材カードとしても) (1996年

- 「わたしたちの大和川」の発行は画期的なものとして歓迎された。 (2000年 (奈良～大阪の教育関係者が初めて対面。民主的な話し合いを重ね、現場の感覚を生かした編集に成功。))
- CDROM「わたしたちの大和川」は、子どもたちが自由に学習をすすめられるよう工夫され、楽しくおもしろいと好評。 (2001年 (本は2回発行でうちきり。保存活用校も多いが、本もCDROMも無い学校が多い。))
- 大和川は総合学習の舞台。
川の歴史・川とくらしの今昔・山～海・地理地図学習・川の自然・生物・川とまちづくり・川の汚染・水害・防災・川と海・山と川・川と産業・川と文化・環境・・・・
- 「日本一きたない川」だけを強調する実践の問題点も
 - ・ある学校の研究発表で「きたない」という言葉のみが飛び交う。
 - ・「川をよごしているのは私たち」だから「ごめんなさい」で終わってよいのか。
- 大和川の特長や都市化の問題、川の自然など、子どもなりに理解し、川の浄化を願うとりくみにしていきたい。

4、大和川つけかえ300周年 堺キッズ大集合大和川こどもまつり

- 2003年末にスタートした「300周年記念事業堺市市内連絡会」は、大和川への意識や記念事業へのアイデアを募集するため、市内4年生全員に大和川についてのアンケートを実施した。2004年度初めに、4小学校教員と小学生各3人・市職員が実行委員となって、大和川堺キッズプロジェクトが発足。大人と子ども達のにぎやかな会合を重ねて、大和川こどもまつりを準備。夏休みには、浅香で大和川の観察会。初めて大和川に入った子や大人達も「大和川にも生き物があるんだ」「ずいぶんましになってきたという谷幸三先生の話がよかった」「もうちょっと安全に遊べる川にしたい」と、感想をもった。出島漁港から船で河口を見学し、漁連の高田利夫さんのお話を聞く会にもとりくむ。大和川河口に干潟をつくり、大阪湾再生へ行動する漁師さんたちに大変はげまされた。
- 大和川まつりの会場は大和川の河口・海とのふれあい広場。公共交通機関は無く、堺市街地から10km余の不便な場所。予定の10/10は台風で延期、本番となった11/27(日)も、前夜の大風で準備のテントがすべて壊れるハプニングの中での実施。ステージでは中九兵衛さんのお話・大和川クイズ・凧作りと凧あげ・チェックポイントゲームなど。青空の下で、手作りおもちゃ・大和川かるた・パネル展示なども実施。父母・地元の皆さんに支えられ、手作りのすばらしい祭りにすることができた。

5、子どもは川で遊びたい・・・ 2004年2月堺市4年生4186人アンケート結果から

- 地域差があるものの、遊んだことの無い子が8割に近い。
川が危険な場所とされ、親子で出かけることも無い現状でも、浅香辺りでも大人の釣り人にまじって、小学生らも網や釣り道具を持って来ている姿を見かける。
- ・川に入っての遊びが大変少ない。入って遊びたくなる水質でないということだろう。少数だが、北地域の大和川近くの子が魚釣り・魚獲り・亀獲りをしており、西地域の学校の遠足で生物観察をしている。

- 大和川の良いところは思いつきにくいようだが、回答者の4%強とは言え、「広い」「生物がいる」に続いて第3位に「歴史がある・つけかえて300年になる」の答えがあるのは興味深い。川とくらし・歴史を学ぶことが川への意識を高めることがわかるのではないか。
- ・悪いところでは、56%近くが「きたない」と答えている。見ていなくても「大和川はきたない」イメージが流布されているように思われる。きたない・ゴミがある・くさいという以外の数が少ないことから、課題は意外と単純で見通しがあるということではないか。
- 大和川学習で心に残ったこととして、つけかえられた川であること・暮らしにとって大切な川であるということが同数18%ほどある。多くは無いが、歴史に興味を持ち、なぜ汚れたかについても考えている。
- 親たちも願いは、「きれいな川にしたい」が断然1位。124項目もあり、具体的で、多様な体験の場だったことがわかる。しかし、親世代が育った頃は和歌山が最も汚れており、遊んだ体験より、洪水や豚が流れてきたなど、マイナスのイメージが残っているようだ。
- ・きれいで安全な遊べる川になってほしい。住民としての努力も必要だなど、保護者の言葉で綴られている。
- 回答者は60%弱だが、いくつか集約されなかった学校もあり、4年生全体の意識や意見が反映された。真面目な答えが多く、社会科で「暮らしと水」や「大和川のつけかえ」を学習することで、問題意識が芽ばえていることがわかる。家族で話し合い、市民としての意見を記入していただくなど、貴重な機会になった。
- 300周年に取りくんだ2004年に水質の環境基準を達成している。今後の河川行政や市民のとりくみを広げて、遊べる川にしていきたい。
- ・ワースト1と言っても、どんどん良くなってきたことを知らせ、川にふれあう活動を学校や市民の皆さんも広げてほしい。

6、遊べる川にしたい・・・今年3月5日6日場での4つのとりくみを通して

- (5日、・クリーンキャンペーン応募作品表彰式 ・大和川サミット
6日、大和川・石川クリーン作戦 ・大和川の未来シンポジウム)

○遊べる川への願いがあふれた応募作品

- 北側大臣は「きれい・安全・親しめる川」「BOD3以下にし、近い将来大和川を上水源にしよう」「2010年平城京1300年を、大和川再生で迎えよう」と呼びかけ。
- クリーン作戦（浅香会場）で大和川まつり実行委員が発表。未来シンポジウムでは7小学校から発言・発表。学習の成果を作文・レポート・音楽・絵物語などで報告しながら、「遊べる川になってほしい」と願う。

7、300周年 水質向上・研究と実践のひろがりを見守るものに

- 300周年の盛り上がり（大和川水系ミュージアムネットワーク・大和川について学ぶ市民・研究者のとりくみ・大和川フォーラム2004・歴史博物館・自然史博物館シンポジウム・流域フォーラム など）を、今後に生かす学会・資料センターを。
- 『わたしたちの大和川』再発行と教育実践の交流・発展に努力。
- 川見守り・川遊びの市民グループづくり。

瀬と淵浄化施設の活用。

○堺市浅香地域への瀬と淵浄化施設設置を要望。

「水辺の楽校」として、市民・学校の協力で清掃や観察・遊びの拠点づくり。

(常磐捷水路ファブリダムへのゴミ滞留・水質悪化の問題も同時に解決?)

○汚れた生活廃水ストップ「社会実験」・・・・・・2～3か月かけて、住民・学校・子どもたちに意義を理解し、実践の意欲づけが必要。今回は、あまりに期間が短く、住民の自発的なとりくみを引き出し、持続させる上で無理があったのでは?

・市民生協のとりくみと結び、新たな活動のきっかけに。

○歴史・環境学習センター（大和川資料館?大和川学習館?）が必要。

まずは、既存の施設や場所を活用し、住民・子どもたち・教員・学校が利用できるもの。パネル常設展示。川とふれあって遊び、学ぶ、市民・子どもたちの研究と活動のセンターをつくりたい。

※資料映像

「未来につなぐ大和川」大和川つけかえ300周年記念事業・堺市の記録CDROM

「大和川学習と子どもたち」写真集CDROM

五十年後、素晴らしい大和川で

また会いましょう



『堺キッズ大集合！大和川子どもまつり』の企画を担当された西河さんに聞く

ひと昔前には、大和川で夏休みに泳いだり、河原で風揚げをしたりした思い出のある方もまだまだ堺にはいるだろう。取材している私もその一人で、大和川で魚を追いかけたのだ（歳がばれる！）。

その大和川が付け替えられて二〇〇四年はちょうど三百年。市は種々の記念行事を行った。その中で、『大和川子どもまつり』は企画段階から（子ども参加）と聞き、十一月二十七日の本番前に取材することに。今回は、この「大和川・堺キッズプロジェクト」を進めてこられた大和川付替え三百周年記念事業堺市事務局（建設局土木部河川水路課）主査の西河嗣郎さんにお話を伺った。『子どもまつり』の三日前のことだ。

子どもはアイデアいっぱい

三百年を節目に記念行事をと、土木部、企画部、下水道部、都市整備部、環境共生部、教育委員会ですべて市内に横断組織を設け、一年ほど前から準備をしてきました。向丘小の小松先生は小学校からのオブザーバー

として参加して頂いています。大和川は堺をはじめ関係する地域も多いですが、川の付替えに対する思いは地域によって様々です。堺では堺なりの歴史をたどるパネル展の開催やミニフォーラムなどを企画しました。でもそれだけじゃなく未来を担う子どもたちが中心となる何かをしたいと思ったのです。やはりこれからの大和川をどうしていくかが大切ですから、それには今、子どもたちに一緒に考えて欲しかったのです。

堺市では小学校の四年生で大和川の勉強をします。小学四年生は堺市全体では七千人ぐらいになります。そこで今年二〇〇四年二月にアンケートを取りました。昨年度のことなので、今の五年生の子どもたちになります。何かいい企画に繋がればと思いました。

「大和川のとこが好きか嫌いか」とか、「大和川で遊んだことがあるか」とか、「大和川にどんな思い出があるか」などです。出来るだけ具体的

な設問をしました。それらをベースにして、一緒に企画を考えてくれる小学校を募ったのです。三宝小学校、錦西小学校、新浅香山小学校、向丘小学校の四校が参加してくれました。各校から代表の児童三名と教師一名の十六人と市側から四名の二十人で「大和川・堺キッズプロジェクト」を組織して五月から会議を進めてきたんです。川をきれいに

アンケートでは、「大和川をきれいにしたい」という意見がとて多かつたのが特徴的です。堺には支所が六ヶ所ありますが、地域に関係なく、どこでも三割近い子どもが川をきれいにしたいと答えています。大和川は汚いというイメージが強いようすが、大切なことだし、子どもが強くそのことを思ってくれるのはうれしいですね。今回の『大和川子どもまつり』の最後にも清掃活動をしました。

そのほか、歴史パネル展示でもただ見るだけではなく参加できるものにしたと、来ら



オープニングセレモニー

三宝小学校校区音楽隊の演奏

れた人に大和川の記憶を年代別にシールで貼ってもらったり、大和川の思い出や意見などを書いてもらうなどの工夫もしました。いろいろな声が寄せられました。



よく売れたよ フランクフルト

水を流すだけではない

昔、川は治水・利水を対象としていました。法律上も川の整備や管理については行政がすべて決めていました。でも今は治水・利水に加えて環境という視点が大きくなっていますし、そのことは法律にも明記されています。「水を流したり利用するだけのもの」ではなく、生態系や、人が様々な恩恵を受けるといふか、私たちの生活の中に密着した空間として意識されてきたのです。だから色々な人と意見交換することが必要だし、皆で良くしていこうということが大切です。

また、昔は子どもたちは川で泳いだりして、自身の体験から自然の威力を学んでいました。川・水の恐ろしさを学んでいたんですよ。これも川の恵みの一つではないかと思えます。それが池や水路が無くなった

り、汚くなったりして川に入らなくなる。で、危険がわからない。川の危険な個所でデントを張って流されたりするの、そういう知識が身近に学べなくなったことと関係あると思います。

出前授業もしています

普段子どもたちに接しない我々ですが、「川のことを話して欲しい」と言われれば、川や水に関する授業を、学校に出かけていきます。総合学習とかありますからね。二、三クラスの子どもたちが多目的室にどんと入ってるんです。百人近くの子どもたちですから、集中して聞いてもらおうと思ったら、こちらも色々勉強して行かないと出来ません。校区内の自然や水環境を調べておいて話をします。子どもたちの集中力というのは、せいぜい二十分持つかどうかでしょう。映像を用いたり、クイズを入れたりして工夫もします。校区の水質調査を子どもたちとすることもあります。

勉強しないといけないので大変ですが、子どもって楽しいですね。クイズなどでは、すぐに反応してくれます。「はい、はい」と手が挙がって、百人ぐらいいると、どんなクイズもたいがい誰かが知っていて、答えてくれます。すごいですよ。突

拍子もない発想があったりして新鮮だし、こちらにも勉強になります。

子どもって、エネルギーいるなあ

（大和川・堺キッズプロジェクト）の会議は全六回もったのですが、ここでも子どもたちのアイデアはおもしろかったですよ。マイペースに自分の意見をどんどん言ったりして、大変でしたが（笑）。十二人でも、けっこう大きな声を張り上げないと聞いてくれなかつたりして、普段そんな場面はあまりないからちよつとエネルギーがいりました。でもみんな熱心で、先生以外の人と話す機会は少ないし、楽しかったのでは？私にも楽しかったです。

会議に参加してくれた子どもたちは、目的など分かって選ばれてきた子どもたちですから、みんな前向きです。ですから建設的な意見を言ってくれますし、違う意見にも反応して充実していました。先生方は毎日三十人・四十人相手では大変でしょうね。

愛する気持ちが宿って欲しい

会議では、「どこですか」「プログラムの中味は？」「役割の分担は？」等々運営についての他に、現地調査・生き物観察会・風作りの練習などもしました。

予算は三百万円で、この「大和川子ども



スタッフでも頑張ったよ
四年生で頑張ったよ
まつり」を始め、歴史巡回
パネル展やミニフオーラム
を行っていきま
す。

やりつ放し

では駄目ですから、とりまとめも考えています。アンケートの集計に考察なども加えて報告したり(三月ぐらいをめぐりに)、歴史パネルなどもCDに入れて学校へ配布できたらいいなあと思っています。五十年に一度の記念事業ですから、次の三百五十年に向けて「五十年前はこんなことをしたんやなあ、五十年前の子どもたちと大和川の関係はこうやったんやなあ。」と思ひ起こせるような資料を残しておこうと思います。

「川を大切にする」ということは、山や里など環境のことを考えるきっかけになります。水辺というのは繋がっているし、いろんな展開が出来ます。大和川だけでなく、また堺以外の川にも思ひが広がってくればいいと思います。大事なことは、「知る」「触ってみる」ことから、川に魂というか、川を愛する・自然を愛する気持ちが宿ることだと思っています。

子どもたちと、一緒に話し合ったり、考えたりして「大和川こどもまつり」を行いま

したが、実はそのプロセスがとても大切なんですね。学校は違えど、学年を超えて大人と子どもたちが一緒に一つの目標に向かって取り組んだことは、とても意義深いことなのではないでしょうか。その中から一人でも二人でも社会活動に関心が広がればうれしいです。

私たちの課では大和川付替え三百周年記念事業の事務局をしている加減で、とくに私は他の仕事がなかなか出来なくて大変ですが、記念事業について、走りながら企画を考えてきました。

五十年後、きれいな大和川が普通に流れていると思っています。元の姿に戻すべきだし、戻せると信じています。人間中心にだけ考えていると駄目で、エネルギーはいりますが要はやる気の問題です。

§

川はいろんなことに繋がっていて、本当に身近な問題なんだなあと思わせてくれる西河さん。仕事だけでも随分忙しうなのに、「近畿水の塾」で水環境のNPO活動もされていると聞いて、水への情熱が半端ではないんだと納得した。こんな人に出前授業をして貰える堺の子どもたちは幸せ。子育ての難しい今、いろんな人との関わりが深まれば、と思った。

十一月二十七日の本番は

とっても風が強かった!

堺ってこんなに広がったんや!と驚きながら新日鐵跡地をどろんどろん走って行って、その奥の奥に「海とのふれあい広場」というのがあった。車で行けない所。だから駐車場もパーンとあってとにかく広い。

メイン舞台では、三宝小学校校区音楽隊の演奏が流れていた。その後は、三百年前に付け替え工事に頑張った中甚兵衛さんの十代目の中九兵衛さんのお話や、大和川クイズなどの催しがあった。広場ではいくつものブースがでている。模擬店や手作り遊びの他に、大和川博士の子ども向けの付け



大和川クイズ表彰式

替え工事の説明や、川を汚さないためには何が自分たちで出来るかなどのお話。堺市下水道部の下水道の排水で育てたあじさいの苗木の無料配布もあった。野鳥

の会のパネル展示。人力発電のコーナーも
午後からの催しは「凧を作って揚げてみ
よう」など。風がちよつとありすぎ？でも
家族連れで大人も子どもも犬たちもみんな
それぞれに楽しんでた。

最後に大和川クイズで司会をした三宝
小学校のスタッフにインタビュー。

【今日の司会をしてどうでしたか？】

箕作君 楽しかった。寒かった。家の人が
来てくれてカメラで写真撮って
くれた。

荒木君 緊張したけど、ちゃんと言えて良
かった。

柴さん みんな楽しんでくれたから良かっ
た。

【スタッフを経験した感想は？】

箕作君 (台風のため十月十日を) 一回延
期したけどやれて良かった。

荒木君 最初だけ緊張したけど参加できて
良かった。

柴さん 他の学校の子らと友だちになれて
良かった。

みんな児童会役員なのでスタッフにな
ったのですが、なかなか経験できないこと
ができて、良かったと、とってもいい笑顔
でインタビューに応えてくれました。

「たんぽぽ」No.135, 2005年2・3月号(堺市教育文化センター発行)より